

2006.09.03

堀川再生のための連携プロジェクト2006 中間報告会 議事録

1. 概要

日時：2006年9月3日(日) 14:00～17:00

参加者：松尾，富永，武田，秀島，和久，石黒，伊藤，中島，原田，近藤，岩田，太田，古谷，徳永，
許士，浅野，正田，藤岡，松林，堀田，服部，丹坂，佐伯，細谷，山田，松永，平田，東山，
井上，後藤，井邊，小池，原，吉田(34名)

司会：秀島栄三(名工大)

場所：名古屋工業大学 講堂 2階会議室

議事録：和久昭正(名工大)・小池隆之(名工大学生)

2. 各グループの活動状況報告

1) **第1グループ** 報告者：名工大 秀島助教授 配布資料及びパワーポイント

コンセプト：「堀川を活かした魅力あるまちづくり」

(1)第1回会合(4/22)

ブレンストーミングによる状況把握を行った。

これを基に舟運観光、沿岸整備、商業の課題などについて検討を行った。

(2)第2回及び第3回会合

舟運を中心に検討を行った。

最近の舟運の動向を確認した。

例えば、東山ガーデンの遊覧船、水上バス社会実験、ゴンドラを守る会など。

舟運観光や水辺整備を行うことにより、期待されることとして、脱クルマ、スローライフ、観光産業などがある。これらには追い風が吹いており、動きもある。

舟運観光と水辺整備における課題として、運行条件、採算条件、操船者・ガイドの整備、沿岸の整備、沿岸の人々の意識調査がある。

沿岸地域の意識調査内容は、堀川に対する認識や好意の有無がある。

沿岸の不動産管理システムの構築を図っていく必要がある。

これらを整備して、公共性のある土地利用へ誘導していく。

2) **第2グループ** 報告者：中部大 松尾教授 資料：配付資料

コンセプト：「堀川に関わる連携方策」

(1)第1回；討議のすすめかたと方向性について、現状の把握、あり方、メリット、デメリットなどを討議した。

(2)第2回以降

堀川にかかわる市民団体の活動状況、交流状況を調べ、連携のメリット、デメリットを検討したうえで、連携の在り方について討議した。その結果、以下のような意見が述べられた。

市民団体の交流について、中経連の堀川カレンダーの充実、活用を図る。

分散型ネットワークにより交流を深めていく。

継続可能な情報発信拠点の構築を行う。

交流の場として、コンセプトのない交流会の必要性も議論された。

たくさんの方が参加できるように、各種堀川イベント間の日程調整が必要である。

各団体の活動をプロデュース、サポートをする事務局の設置が必要である。

行政は、サポートを行う役割を担うことが基本的姿勢

連携プロジェクト参加者および参加していない団体もふくめた堀川に関係する諸団体を対象にし、連携のあり方についてのアンケートを行う。その結果を基に、最終のワークショップを開催し、成果として連携方策の提言をおこなう。

3) **第3グループ** 報告者：中部大 武田助教授、名城大 原田教授 資料：パワーポイントのみ
コンセプト：「水質の感覚的評価方法」

(1) 取り組み方針

におい・ゴミから検討を進める。水質に関しては除外する。

におい・ゴミの状況把握し、マップ化を行う。

夏場に、においの調査を行う。

(2) なごや夏まつりに出展について

堀川に関する住民の意識の向上を図る、連携プロジェクトをPRすること等を目的とした。

においに関するアンケートを、クイズ形式で行った。回答者は400名余であった。

年配の方は、堀川を良く知っている、子供は、あまり知らないことが分かった。

一番くさい水は納屋橋だと評価された。

(3) 臭い、ゴミについての観測

堀川にかかる橋4カ所で行った。

観測内容は、水質、流速、においの調査（橋毎にアンケート300名程度）採水調査、水面を浮遊しているゴミの調査である。

データは現在まとめ中である（年齢、住所、堀川の臭いの印象、臭いの種類、臭いがする周辺での可能な生活レベル等）。

臭いに関して場所の特性が出ている

a) 散歩できるという人と、我慢できないという人が多い（生活はできない）

b) 気象条件等による臭いの影響がある（雨、干満時など）

堀川のおい、ゴミに関する特性を把握する。

今後、におい、ゴミに関する対策の検討を行う。例えば、においマップの活用、ゴミの発生原因の特定とその対策等。

4) **第4グループ** 報告者：名工大 和久助教授 資料：配付資料及びパワーポイント
コンセプト：「堀川の良さの再発見」

(1) 具体的テーマ「堀川に親しみ、環境と歴史を学ぶ」の取り組み状況

堀川を歩くと、環境および歴史学習教材が豊富にある。これが堀川の魅力の一つである。

今年度の成果として、小学校高学年レベルの学習教材（パンフレット）を作成する。

イベントに積極的に参加する。工大祭でプロジェクト堀川（名工大のサークル）が出展した「堀川マップ」「松重閘門の模型」「堀川の水のゼリー」等を学習教材の一つとして活用する。

(2) 船上からの調査活動

5月28日（土）実施した。参加者は、23名

当日は、干潮の時間帯で、ヘドロの露出、護岸の鋼矢板の欠損状況がよく観察できた。また雨上がりで、臭いが強かった。

(3) 今後の調査活動予定（車上視察）

9月23日(土)に実施する予定。

七里の渡し(葦原) 藤前干潟、松重閘門(歴史的背景)を観察する。

5) **第5グループ** 報告者: 名工大 富永教授 資料: 配付資料及びパワーポイント

コンセプト: 「環境学習と情報発信およびPR」

(1)第1回 問題点の抽出を行った。

(2)第2回 WEB 写真コンテストについての検討を行った。

(3)なごや なつまつりの状況について

メンバーの持ち寄った写真コンテストと連携プロジェクト、WEB 写真コンテストのPRを行った。

写真コンテストの参加者 998 人であった。

写真コンテストの結果は、HP で発表する。

参加者の感想: a)昭和 40 年代に泳いでいた(BOD が高かった時代であるが?)。

b)臭いについての意見もでた。

c)夜景や桜の風景を見たことある人が少ないことが分かった。

(4)WEB 写真コンテスト開催中であり、その状況は以下の通りである。

堀川の様々な写真(良いところ悪いところ)を募集することで、沢山の人知ってもらおうのが狙いである。

宣伝が課題である

(メンバーから、沿川のお店にポスターを貼ったらどうかの意見あり)

賞品の提供を商店街や企業にお願いしていきたい。

(5)課題と今後の予定

「環境学習と情報発信・PR」を、どうアピールできたかが課題である。

他のグループの情報発信についてどのように考えるか、今後検討が必要である。

連携プロジェクト全体のポータルサイトを作ることを検討する。

その一環として、一般からの情報を収集・集積する。

WEB 写真コンテストを成功させたい。

堀川マップと連動した「堀川百科辞典」を作成する。

3. 質疑 および意見交換

質問: (第1グループに対して)データベース作りの詳細について知りたい。

回答: 舟運を活発化するためには、沿岸の状況を知ることが大切である。具体的には、土地利用や沿岸状況の調査を行い、まちづくりの基礎資料とする。

質問: (第2グループに対して)連携方策の活動は、どのように行っていくのか。

回答: 名工大のインフラ研究会を拠点として、今後もWEBサイトを通じて活動団体の情報収集および発信をしていきたい。

意見: 写真などの知的財産権の扱いを明確にしておく必要がある。

質問: 現状では、ライオンズクラブの1000人調査隊や行政が拠点もしくは、窓口になっているのではないか?

回答: 現状このような拠点を作ろうとすれば、人材・資金が必要である。

そういった問題を解消しながらポータルサイトの役割を期待するのなら、大学が一番良いのではないかと思う。

意見：堀川メーリングリストに発信する際は、先に情報蓄積型の HP を作ってリンクさせることで、たくさんの人に見てもらおうようにするのがよい。

意見：堀川に対して正しい知識を確定して情報化することが必要だ。例えば、上流・中流・下流で状況が違う。対象としている箇所が、川なのか、海なのか、入り江なのか、水質はどうなっているのか等が、一般市民には理解されていない。堀川の正しい情報をデータベース化する必要がある。

意見：連携プロジェクトの活動成果は、マスコミにも取り上げてもらうよう働きかけるべきだ。

意見：熱意による広がりを期待したい。

意見：連携プロジェクト活動を通じて、市民の関心を高めて、水質浄化につなげていこうとする意欲を感じた。

質問：水質浄化に関して、汚染の基を断つような、もっと根本的な部分を議論すべきだ。

回答：(第3グループ)

今回は現状から身近な状況に着目した取り組みを行った。すなわち臭いとごみ問題である。ヘドロ等の問題も関連するので、もちろん検討の対象である。

回答：(第5グループ)

ヘドロのメカニズムについてあまり知られていない。それをみんなに知ってもらいたい。また、そのことに興味を持つためのきっかけを作りたい。

当然、汚染の基を断つ対策を考えるべきだという意見に対しても、検討していかなければならない。今はその前の段階にある。

回答：(第4グループ)

堀川の価値を高めるにはどのような取り組みが必要か、という観点からまとめた図を紹介する。まず、水質浄化事業は、国交省・名古屋市・大学という専門家集団が取り組む。一方、ごみや洗剤を流さないことや、堀川のすばらしさを認識するという心や意識の問題は、市民を中心に検討を行う。

環境保全に対する評価手法の研究や、歴史環境教育の教材とする取り組みもある。

これらの取り組み成果を都市計画に反映していく。

もちろん産業界の参画や協力が必要である。

意見：そのまとめ図に、マスコミや官の位置付けも表現して欲しい。

回答：連携プロジェクト研究グループの間では、そういった問題に関しても検討している。連携プロジェクトは、そのうちの一つとして動いている。ここでは社会のニーズを明らかにしていきたい。

意見：一般市民としてこの場に参加した。堀川をよくしたいという思いは負けていない。

さっと やれるようなことからやってもらえた方が、市民としてはうれしい。

回答：ヘドロを浚渫するという施策だけでは、問題は解決しない。色々な施策を検討する必要がある。

意見：納屋橋のステージをもっと有効活用したらよい。

意見：WEB 写真コンテストでロボコンや、ウォーターマジック・フェスティバルの状況も伝えたらよい。

意見：もっとパソコンで情報発信をしてほしい。拠点の問題があるが、市民団体では、その維持や継続が難しい。大学に拠点を置くのが最も良いと思うが如何か。

メーリングリストにリンクさせたらよい。

ポータルサイトを構築したらよい。交信型や、情報発信型等が考えられる。

回答：情報発信の拠点として、大学のインフラ研がどうかという意見があるが、検討の余地がある。

まとめ役として連携プロジェクトが考えられる。これについては、第2グループで纏め、具体的

提案まで持って行きたい。

成果は、都市計画に反映できるようにしていきたい。

意見：堀川の取り組みに関しては、名古屋市長の随筆があり、大いに参考になる。

意見：連携プロジェクトの成果発表は、PRグループをつくって、そこが中心になって、マスコミに流したら効果的だ。

意見：ワークショップを実施して意識が変わったかどうか興味深い点だ。

意見：木曽川導水計画は、平成18～19年度に行うことが、ほぼ決まっている。名城線地下鉄の湧き水を流す工事も準備中である。

浮遊ごみの除去装置設置セレモニーが、9/10に行われる。

9月16日に、ウォーターマジック・フェスティバルが行われる。

意見：このワークショップは、市民・大学・行政の連携プロジェクトで開始された。

スタート時に、「夢」が描けたらよいという意見があったが、現在まだ実現していない。

2010年堀川開削及び築城400年記念事業を目標として、特に第1グループの「まちづくり」提案に期待したい。

情報関連では、第5グループが中心となっているようだが、よい情報を集めることは難しい。気楽に発信できるようなシステムがよい。

意見：堀川のための検討事項として、しなければならない2つの方策がある。

a)水質浄化と b)活性化である。

「堀川ファンを作ろう」を提案したい。

コンピュータネットワーク以上に、紙媒体（広報名古屋など）は、効果がある。例えば、堀川広報誌（折り込みチラシ、新聞）を作りたい。発行は、季刊が考えられる。

その例として、「川楽版」というネーミングも考えている。

4. 今後の活動計画

1) 各グループの今年度の成果予定

第1グループ；舟運と沿岸整備のためのデータベース作り：2月上旬

第2グループ；連携方策に関する提言：年内

第3グループ；においマップ、ゴミマップの作成：年内

第4グループ；環境教育パンフレット：年明け早々

第5グループ；写真コンテスト：10月31日まで。調査のまとめ、

ポータルサイトの作成：年内

2) 来年3月頃、報告会を予定したい。

3) 来年度以降の取り組み課題や、近い将来の目標・方向性等も設定したい。

(以上)